

(様式7-2)

会派政務調査活動・先進地調査等 精算書

2025年7月11日

三田市議会議員 福田 秀章 様

本会派（私）は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会派名	市民とともに	代表者	
		議員名	橋本 維文 ✓
派遣者氏名	橋本維文 ✓		
視察先	① ジビエ処理施設、新田哲也氏自宅 丹波篠山市大上219 ✓ ② 兵庫県丹波篠山市役所 丹波篠山市北新町41		
調査事項 (調査目的)	① ジビエ食肉加工施設とジビエ販売を営んでいる方からジビエの捕獲を始め、流通等を調査することで三田市での課題解決の糸口を探る。 ✓ ② 丹波篠山市のAI デマンド交通等の取組について		
日時	2025年7月3日(木) 10時~15時30分 ✓		
支払金内訳	科目	支出額	摘要
	宿泊料	0	
	日当	0	
	鉄道賃 (モ/レール)	0	
	航空賃		
	バス賃		
	船賃		
	レンタカー	2,274 ✓	8,525/4=2,131円燃料費 570/4=143円 ✓
	その他	14,884 ✓	手土産 2,268×2か所/4=1,134円 ✓ 加工施設視察費用: 55,000/4=13,750円 ✓
合計	17,158 ✓		
備考			

※100 km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名（無会派は記入不要）、議員名を記入の上、押印してください。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

2025年7月11日

三田市議会議長 福田 秀章 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民とともに	代表者	
		議員名	橋本 維文
派遣者氏名	橋本維文		
視察先及び調査事項 (調査目的)	① <u>カーリマン 丹波篠山市大上 219</u> <u>「ジビエ食肉加工施設の現地視察」</u> ② <u>丹波篠山市役所 丹波篠山市北新町 41</u> <u>「AIオンデマンドバスの概要について」</u>		
日 時	2025年7月3日(木曜日) 10:00~15:30		
視察先対応者	① <u>丹波篠山市役所 農都創造部 森づくり担当部長 押田健一氏</u> <u>鳥獣被害対策専門員 京極暁氏</u> <u>カーリマン施設代表 新田哲也氏</u> ② <u>丹波篠山市議会 副議長 向井千尋氏</u> <u>丹波篠山市役所 企画総務次長・創造都市課長 藤田尚位氏</u> <u>丹波篠山市役所 創造都市課係長 竹内一真氏</u> ① ② <u>議会事務局 書記 岡崎 賢二氏</u>		
(調査結果の概要及び所見)			
・調査結果の概要及び所見は、 別紙1：①「ジビエ食肉加工施設の現地視察」 別紙2：②「AIオンデマンドバスの概要について」 に添付しています。			

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名（無会派は記入不要）、議員名を記入の上、押印してください。

視察先①：カーリマン

日 時：7/3(木)10時～12時

目 的：ジビエ食肉加工施設の現地視察

(1) 丹波篠山市における野生動物被害対策の状況

丹波篠山市役所 農都創造部 森づくり担当部長 押田健一氏から、資料に基づき、

- ・鳥獣別被害額・被害面積の推移
- ・R7年度丹波篠山市獣害対策施策
- ・市猟友会への委託の状況（捕獲目的、対象、期間、活動内容、捕獲方法、報償費等）
- ・丹波篠山市の有害鳥獣捕獲の特色
 - 1 鳥獣被害対策実施隊制度を採用
 - 2 銃猟とわなによる捕獲
 - 3 報償費等を支払い
 - 4 捕獲したシカ・イノシシ食肉利用促進
- ・獣害に強い集落づくりの取り組み（住民参画、環境整備、情報共有）
- ・獣害対策の課題→獣害対策推進計画を策定（R2）

(2) ジビエ食肉加工施設の現地視察

カーリマン施設代表 新田哲也氏から、

施設に持ち込まれた時から製品になるまでの加工工程を、施設内の設備ごとに説明

- ・捕獲：箱罠・くくり罠等で捕獲した個体を、止め刺しの後に急速に冷やして加工施設に搬送
- ・放血、洗浄、皮剥ぎ、ドライ熟成、脱骨、トリミング、冷凍・発送

【視察を通じて】

獣害対策としてのジビエ活用は、有害鳥獣による農林業被害を抑制しつつ、地域経済の活性化や食文化の向上に繋がる可能性を秘めています。捕獲された野生鳥獣をジビエとして有効活用することで、被害対策と地域振興の両立の可能性を秘めていると考えます。

隣接している丹波篠山市での取り組みを分析し、三田市において実行可能な手法を関係者と議論することが不可欠と考えます。そのために、一足飛びに全ての取り組みを進めることよりも、喫緊の課題である「獣害対策」を柱としながら進めていくことを優先するべきと考えます。

一連通して、ハンター、加工施設、行政それぞれの立場でぶれない理念がないと成り立たない仕組みであると感じました。



施設外での説明

「カーリマン」の新田氏 施設内での説明

視察先②：丹波篠山市役所

日 時：7/3(木)13時半～15時半

目 的：A I オンデマンドバスの概要について

- (1) A I オンデマンドバス「のりーな」見学
市役所敷地内で、説明、実車
- (2) 市役所議員協議会室にて、創造都市課 藤田尚位課長、竹内一真係長から資料に基づいて説明

①丹波篠山市A I デマンドバスについて

- ・現在の運行状況
- ・利用方法、運航エリア、運賃
- ・導入車両
- ・ミーティングポイント（バス停）
- ・利用実績
- ・利用者アンケート
- ・住民周知・説明会

②デマンドバス運行エリアの拡大について

- ・デマンドバス運行エリアの拡大について
- ・コミュニティバスの休止について
- ・「交通空白」解消緊急対策事業
- ・A I デマンド交通に取り組む目的について
- ・市のデマンドバスの考え方
- ・デマンドバスの利用説明会について
- ・エリア拡大スケジュール
- ・市の目指すべき将来の公共交通ネットワークの考え方

【視察を通じて】

目指すべき将来の公共交通ネットワークは、誰もが快適に移動できる環境を構築し、持続可能な交通手段を確保することです。具体的には、高齢者や子育て世代、障がい者など、移動に制約のある人々も安心して利用できる公共交通網を整備し、環境に配慮した移動手段の普及の促進と合わせて、地域住民が主体的に関わる「支え合い交通」のような取り組みも検討し、既存の公共交通と連携させながら、地域の実情に合った持続可能な交通ネットワークを構築していくことが重要です。

A I デマンドバス以外にも、コミュニティバス、有償運送、さらには新たなモビリティの活用も含めて、既存の公共交通に連動しながら、市域から「交通空白地」を無くすという、丹波篠山市の明確な将来像がうかがえました。



外観

車内を見学

市役所のバス停